

「続・二上山に咲く花々」の連載開始

4年前、約一年間に亘って奈良民報紙上に連載していただいた「二上山に咲く花々」は、その連載中から有り難いことに好評をいただき、その後その連載を一冊にまとめた「写真集」も短期間に売り切れ、多くの方にご愛読をいただきました。

しかし残念なことに多くの花を割愛せざるを得ませんでした。このほどその割愛分を「続・二上山に咲く花々」シリーズとして、同じ奈良民報で連載していただくことになりました。

第一回は「ヤブツバキ」で正月号に掲載されましたが、編集の都合で2回目以降は4月からの掲載になります。掲載され次第、当ホームページにも転載いたしますので、ご感想、ご批判をいただければ幸いです。

続・二上山に咲く花々 ①

ヤブツバキ(薔椿)

ツバキ科ツバキ属

二上山にはヤブツバキが沢山自生しており、サザンカと共に冬の花の代表格。厳寒の中でも葉を茂らせ、その艶やかな深緑に、真紅の花びら、黄色の葯と、コントラストも鮮やか。冬を耐えて春の到来を待つ人々の共感を呼び、古代漢字導入の際「椿」の字をあてられたのはそのせいでしょうか。写真は澤木仁さん



と書きましたが、最後の「古代漢字導入の際 云々」は私の類推です。と言うのは、「椿」の字には国字(和製漢字)説があるからです。でもそれなら尚更ツバキに対する日本人の思い入れは深いものと言えるのではないのでしょうか。

雪の下で春を準備するユキツバキ

新潟県の「雪国植物園」で初春ユキツバキを見たことを思い出します。あたりは一面雪に覆われ、ユキツバキも地面に押し付けられながらも、しなやかで強い枝に緑の葉を茂らせ、その中で蕾を膨らませていました。見る者を励まして余りある情景でした。

ユキツバキはヤブツバキが豪雪地帯の自然条件に適応したものとされています。歌手小林幸子が艶歌「雪椿」で、「辛くても、我慢をすれば、きっと来ますよ春の日が」と唄っていますが、古来日本人は春を待望する思いをツバキに託してきたものと思われま

桜井の里山を歩く

1月下旬から2月にかけて桜井市の里山をいくつか歩いてきました。

○外鎌山(とこまやま) 292.4m。

外鎌山は近鉄大和朝倉駅の南にある円錐形の山で、「朝倉富士」とも呼ばれています。この山の北側山麓は中腹まで開発され、朝倉台と呼ばれる住宅地となっています。

この山の存在は分かっていたものの、山歩きクラブの運営委員会で例会候補地としてその山名が挙げられるまで、私はその名を知りませんでした。

↓山頂からの眺望(二上山が正面に) 早速登ってみました。大和朝倉駅を出



るとすぐに「外鎌山」の案内看板(右の写真)があり、ポイント、ポイントに立てられたこの看板を探しながら住宅地を進むと迷わず登山口に着きました。

「外鎌山愛好会」の方たちのこの山への愛情が感じられて、山自体への期待をも抱かせる丁寧さでした。

登山道は急でジグザグに階段がつくられていますが、良く手入れされ、路傍の木々にその種名の看板が

取り付けられていて、これも感心させられました。

昔の城跡から大和平野が

頂上には20分で着きました。駅からでは40分の手軽さですが、その眺望は素晴らしく、南北朝時代、南朝がたの地元豪族戒重(カヅユキ)西阿が、ここに城を築いた理由がすぐに理解できました。

大和盆地に島のように浮かぶ耳成山や畝傍山、その奥に葛城連山に連なる二上山がくっきり見えて、「大和の里山」の感をいっそう強くしました。

雑木林に囲まれた山頂でヤママユを一個拾いました。

頂上から南に続く尾根道をたどって、三叉路で左に行って一旦竜谷の集落を確認後、引き返して西側に降りて忍坂(おっさか)に出ました。

忍坂の集落は古代からの街道(忍坂道)が走り、舒明天皇陵とされる墳墓をはじめとする忍坂古墳群の所在地、また神武東征神話にまつわる遺物、遺跡が多く見られます。

神話にまつわる部分はともかくも、日本歴史に古くから登場する地域で、通りにも、神社仏閣にも、そして古墳を抱く谷々の風情も、歴史の香りいっぱいの感じのする地域です。

←古墳のある谷間

域です。



↓ヤママユ

